

都市経済常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和5年5月10日（水）
視察先	北海道千歳市
出席者	高橋 豊（委員長）、井上 敏夫（副委員長）、奈良 直史、池田 博英、遠藤 浩一、高橋 知己
随行者	樫山主査
調査項目	スマートネイチャーシティちとせ構想について
概要	<p>千歳市内にある千歳科学技術大学では、平成31年4月に公立化したことをきっかけに、地域貢献の一環として『スマートネイチャーシティちとせ構想』を立ち上げた。豊かな自然がもたらす生態系サービスを生かした「持続可能なまちづくり」に向けて、市や様々な企業・団体等と連携し、大学が持つICT技術や人間工学の見地などを活用して市が抱える課題の解決を図っている。</p> <p>これまで公共施設内において、子供や高齢者が見ても分かりやすい案内看板表示や人が座りやすいベンチの配列、視覚的に事故が起こりにくい配色を落下防止柵に用いるなどの取組が行われてきた。</p> <p>現在では、小学生の課外授業の一環として、AR・VRを活用し、市内の昔の街並みを再現することができるデジタルコンテンツの作成や凍結しない水道管の開発など、多分野にわたる研究が進められている。</p> <p>今後の産学官民の連携したまちづくりとして、大いに参考になるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q 大学側は、どのように対応しているのか。</p> <p>A 依頼の内容によって、人間工学等の専門の教員が対応する場合もあれば、学生の卒業研究とする場合もある。</p> <p>Q 研究費用はどこから出ているのか。</p> <p>A 市から研究費用は出ているが、その予算内で対応できない場合には、民間企業と共同研究として対応している。</p> <p>Q 今後、さらに予算をかけていくのか。</p> <p>A 産学官民連携の期待は高まっており、それに見合った予算措置を考える必要があるが、今後の展開は明確ではない。</p>

都市経済常任委員会所管事項調査報告書

期 日	令和5年5月11日（木）
視察先	北海道札幌市
出席者	高橋 豊（委員長）、井上 敏夫（副委員長）、奈良 直史、池田 博英、遠藤 浩一、高橋 知己
随行者	樫山主査
調査項目	札幌市民交流プラザについて
概要	<p>札幌市民交流プラザは、年間120万人が訪れる様々な機能を備えた複合施設であり、国内外の優れた舞台芸術や様々な公演を鑑賞するための「文化芸術劇場」、市内の団体等が文化芸術活動の場として利用するための「文化芸術交流センター」、仕事や暮らしに役立つ関連図書を所蔵している課題解決型の「図書館」など、機能ごとに利用目的を明確に分けた設計となっている。</p> <p>防災としては、1週間程度、電気、水、空調等が使用できる災害に強い機能を設けており、北海道胆振東部地震時には、約800人の帰宅困難者を3日間、受け入れたことがある。</p> <p>また、施設側が主催する事業として、オリジナルのオペラの製作・公演を展開するとともに、施設利用者が近隣の商業施設を割引で利用できる取り組みを行うなど、様々な企業・団体等と連携することにより、市内のにぎわい創出としての機能も有している。</p> <p>今後の複合施設整備事業として、大いに参考になるものであった。</p>
主な質疑	<p>Q 課題解決型図書館とはどのようなものなのか。</p> <p>A 司書が毎回テーマを決め、関連図書を展示するとともに仕事や暮らしに役立つセミナーや個別相談会を定期的に行う図書館である。設備としては、分野ごとに専門書籍や雑誌を用意し、打合せスペースや読書ルーム、電子機器を利用できる座席を完備している。</p> <p>Q 管理運営状況は。</p> <p>A 市からの予算のほかに、現在100社を超える企業がスポンサーとなり、市内外からの支援が集まっている。</p>